

米の需給見通しについて

令和 7 年 1 0 月

農林水産省
農 産 局

R7/8年の需給見通しに関する基本的な考え方

これまで

- 需要見通しは、1人当たりの消費量の減、人口減少等による需要のマイナス・トレンドの継続を前提として算定。
- 生産見通しは、次年度の期末在庫量の水準を踏まえて設定。
- いずれも、玄米ベースのみで算定。

R7/8年の需給見通し

- 需給を把握するためには、玄米ベースのみでなく、精米ベースでの把握が必要。
- 需要見通しは、人口減少や直近の1人当たり精米ベースの消費量の実績、インバウンド需要の動向、精米歩留りを考慮して幅で設定。
これを検証するものとして、とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた需要量の推計を行う。
- 生産見通しは、6月末時点の水田における作付意向面積や直近の単収、8月15日現在の10a当たり収量の見込みを考慮して幅で設定。（9月25日現在の予想収穫量を踏まえて変更）

変更のポイント

- 令和7年6月末民間在庫量 <157万玄米ト> → 155万玄米ト>①
 - ・ 出荷・販売段階 速報値(138万玄米ト) → 確定値(136万玄米ト)に更新
 - ・ 生産段階 速報値(20万玄米ト) → 確定値(20万玄米ト)に更新

※10月22日公表の「生産者の米穀在庫等調査結果」の「6月30日現在における在庫量(確定値)」により推計
- 令和7年産主食用米等生産量 <728～745万玄米ト> → 748万玄米ト>②
 - ・ 従来の1.70mmふるい目幅以上から、主食用米として供給が見込まれる米の生産量(予想収穫量(生産者ふるい目幅ベース)+それ以外に主食用として流通する米)に改める。
 - ・ 令和7年産については、令和7年9月25日現在の予想収穫量 [715万玄米ト]+主食用米価格の状況等を考慮し、生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込み量[32万玄米ト]とする。
- 令和7/8年政府備蓄米供給量 <24万玄米ト> → 23万玄米ト>③
 - ・ 随意契約による政府備蓄米の売渡しの申込確定に伴い更新
- 令和7/8年主食用米等需要量 <697～711万玄米ト> → 697～711万玄米ト>④
 - ・ ①に伴う令和6/7年主食用米等需要量の確定値により、1人当たり消費量(精米ベース)を更新(前回：50.1～50.7Kg/人 → 今回：50.2～50.8Kg/人)
 - ・ 上記で算出した1人当たり消費量の最大値について、直近のとう精数量の実績に基づき補正(50.8kg/人→50.7kg/人)
 - ・ 令和7年人口(推計値)を令和7年人口(9月概算値)に更新(前回:123,220千人 → 今回:123,170千人)
- 令和8年6月末民間在庫量 <198～229万玄米ト> → 215～229万玄米ト>⑤
 - ・ 上記①～④に伴い、令和8年6月末民間在庫量を更新

今回の基本指針の変更（案）〔令和7/8年の需給見通しの変更〕

○ 令和7/8年の主食用米等の需給見通し

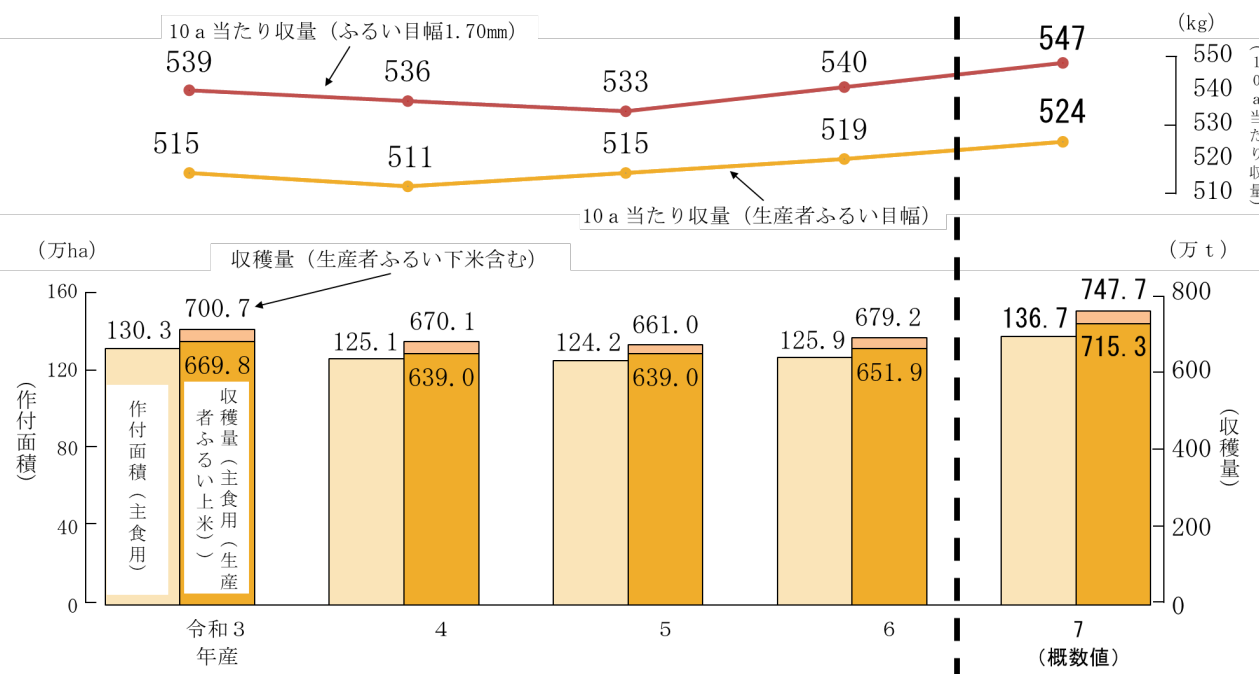
		前回(9月19日)		今 回		
		(万玄米ト)	(万精米ト)	(万玄米ト)	(万精米ト)	
令和7年6月末民間在庫量	A	157	140	155	138	① 速報値から確定値に更新
令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	728~745	645~668	748	662~670	
うち生産者ふりい目幅以上	C	—	—	715		② 令和7年9月25日現在の 予想収穫量に更新
うち生産者ふりい目幅未満 のうち、主食用への供給見込量	D	—	—	32		
令和7/8年政府備蓄米供給量	E	24	21	23	21	③ 申込確定に伴い更新
令和7/8年主食用米等 供給量計	F=A+B+E	908~926	807~829	926	822~829	
令和7/8年主食用米等需要量	G	697~711	624~631	697~711	624~631	④ ①に伴う6/7年需要実績の 変更、最新のとう精数量や 人口の値を踏まえ更新
令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	198~229	176~205	215~229	191~205	⑤ 上記①~④に伴い更新

※ 政府備蓄米の放出(全体で約59万玄米ト)に係る買戻し及び買入れは、今後の需給状況等を見定めた上で行う。

令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

- 令和7年産の水稻の9月25日現在の生産者が使用しているふるい目幅1.85mm、1.90mm等ベースの予想収穫量(主食用)は715.3万トで、前年産に比べ63.4万玄米トン増加と見込まれる。これは、
 - ① 作付面積(主食用)が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136.7万haで、前年産に比べ10.8万ha増加と見込まれることに加え、
 - ② 全国の10a当たり予想収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、524kgで、前年産に比べ5kg増加と見込まれるためである。
- 令和7年産の水稻の9月25日現在のふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量(主食用)は747.7万トンで、前年産に比べ68.5万トン増加と見込まれる。

【水稻の作付面積(主食用)、10a当たり収量及び収穫量の推移(全国)】

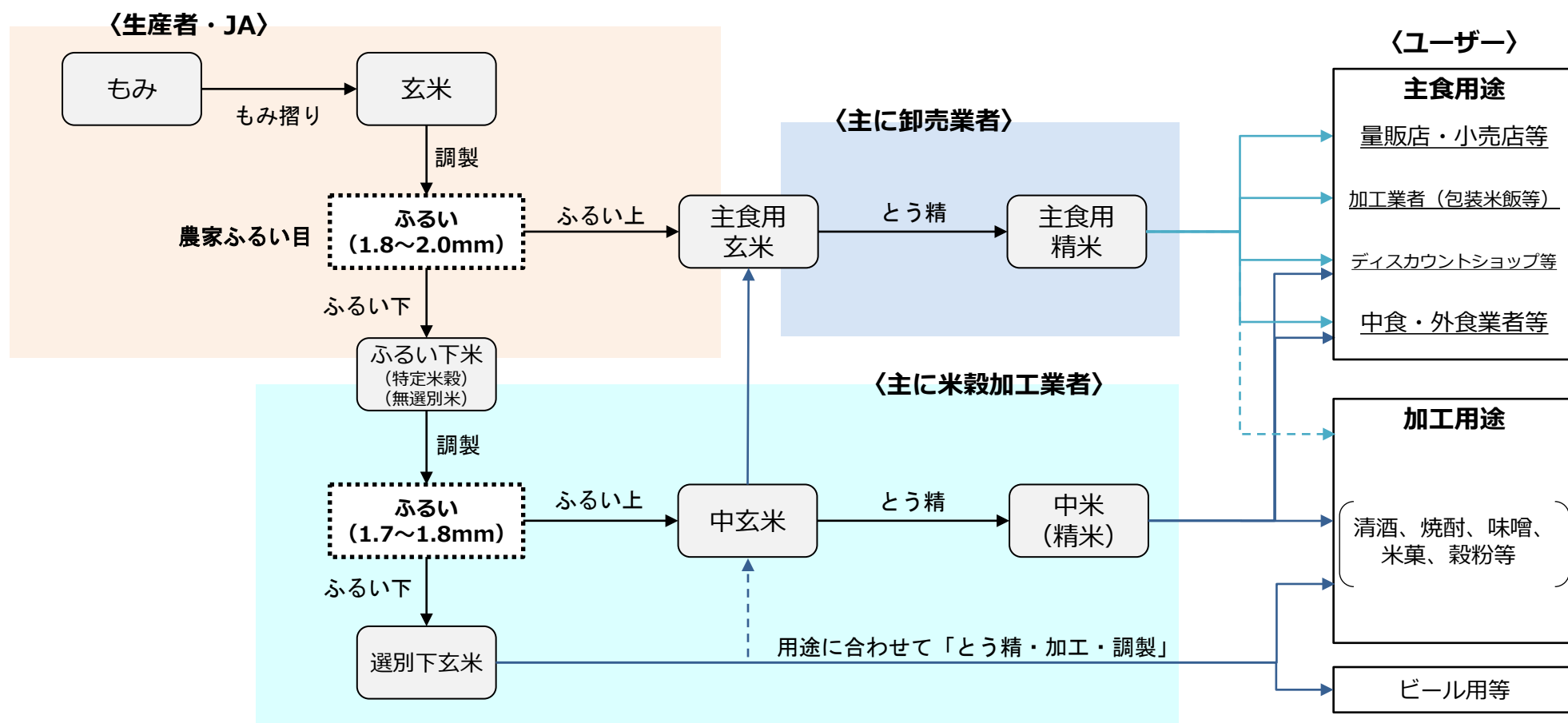


資料：農林水産省大臣官房統計部「作物統計調査 令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量」

- 注：1 作付面積(主食用)とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり予想収量及び予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり予想収量については、都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

ふるい下米の流通

- 収穫された米は、もみ摺り・調製して「玄米」となり、玄米は「ふるい」で選別され、ふるいの上に残った米は主食用として流通し、ふるい目から落ちた米は「ふるい下米（特定米穀・無選別米）」と呼ばれ、さらに選別されて、主食用米や加工用途（米菓、味噌、焼酎、穀粉等）として利用。
- 主食用の引き合いが強い場合や価格が高い場合には、主食用に多く流通する傾向がある。
- ふるい下米の用途別の販売量等を把握するため、今後、米穀加工業者を対象に調査を行う。



令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出（見直し）【精米ベースで算出】

- 1人当たり消費量は、直近5年ではマイナス・トレンドとなっておらず、直近の需要の動向を反映するため、直近5年の平均値と最大値の幅を持って設定。
- その上で、人口推計やインバウンド需要を考慮して、需要見通しを幅を持って設定。

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量（精米ベース）の算出

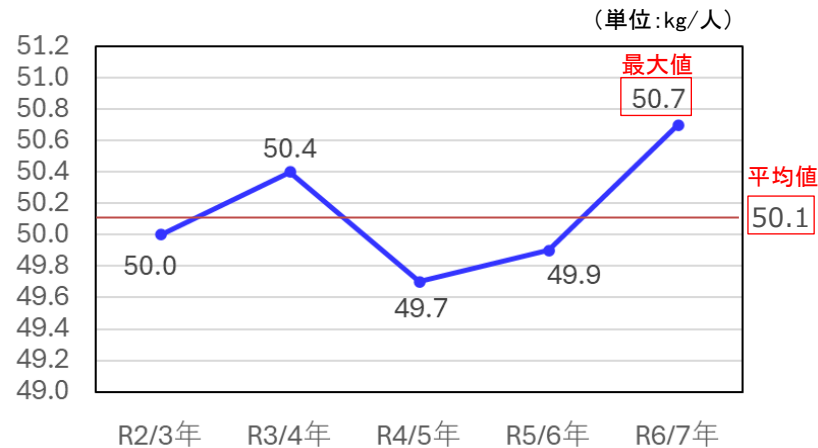
- ① 直近5年（令和2/3年～6/7年）の需要実績（精米ベース）から当該年のインバウンド需要を減じた上で、当該年の人口で除し、各年の1人当たり消費量（精米ベース）を算出

※需要実績にはインバウンド需要が含まれているため、これを減じた上で、人口で除し、日本在住者の1人当たり消費量を算定

$$(\text{需要実績} - \text{インバウンド需要}) \div \text{人口} = \text{1人当たり消費量}$$

- ② ①で算出した直近5年の1人当たり消費量の平均値と最大値の幅をもって設定

（参考1）1人当たり消費量（精米ベース）の推移



II 需要見通し（精米・玄米ベース）の算出

- ① Iの②で算出した「平均値」と「最大値」について、令和7年の人口（推計値）を乗じた上で、令和7/8年のインバウンド需要（試算）を加え、需要見通しを算定

$$(\text{1人当たり消費量} \times \text{人口推計}) + \text{インバウンド需要(試算)} = \text{需要見通し}$$

- ② ①で算出した精米ベースの需要量見通しについて、精米歩留りの直近5年の実績ベースの幅（直近5年平均値、直近5年最低値）をもって玄米換算

（参考2）訪日外国人による米の需要量の推移

（単位：万ト）

R2/3	R3/4	R4/5	R5/6	R6/7	R7/8 (推計値)
0.0	0.1	1.9	5.1	5.7	6.1

（参考3）精米歩留りの推移

（単位：%）

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出

【需要見通し算出に当たっての変更点】

- ① 令和6/7年主食用米等需要量の確定値〔ア〕により、1人当たり消費量(精米ベース)〔イ〕を算出 ……(A)
(A)で算出した1人当たり消費量の最大値について、直近のとう精数量の実績に基づき補正 ……(B)
- ② 令和7年人口(推計値)を令和7年人口(9月概算値)に更新 ……(C)

【令和7/8年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

① 1人当たり消費量(精米ベース)

【算出方法】

需要実績

—

インバウンド需要量
(試算)

÷

人口

=

一人当たり消費量
(インバウンド需要除く)

○ 直近5年平均値

50. 2kg/人

(A)
R6/7年の需要実績の
確定に伴い更新
(+0. 1kg/人)

○ 直近5年の最大値(令和6/7年)

50. 8kg/人

× 0.998

50. 7kg/人

(B)
直近のとう精数量の実績に
基づき補正(次ページ参照)

② 令和7/8年需要量(玄米ベース)

一人当たり消費量
(インバウンド需要除く)

×

令和7年人口
(7年9月人口(概算値))

=

令和7/8年需要量
(インバウンド需要除く)

+

令和7/8年
インバウンド需要量(試算)

=

令和7/8年需要量
【精米ベース】

÷ 0.896

令和7/8年需要量
【玄米ベース】

50. 2kg/人

×

123,170千人

=

618. 0万トン

+

6. 1万トン

=

624. 1万トン

÷ 0.896

697. 4万トン

50. 7kg/人

×

123,170千人

=

624. 8万トン

+

6. 1万トン

=

630. 9万トン

÷ 0.886

711. 3万トン

(C) R7年の推計人口から
R7年9月人口へ更新(▲50千人)

(参考1) 一人当たり消費量(精米)の推移

	需要実績 (万トン)		インバウンド 需要 (万精米トン) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg) (①-②)÷③
	玄米	精米 ①			
R2/3年	704.0	631.3	0.0	126,146	50.0
R3/4年	701.5	632.8	0.1	125,502	50.4
R4/5年	691.1	622.3	1.9	124,947	49.7
R5/6年	ア 704.9	626.2	5.1	124,352	49.9
R6/7年	712.7	635.0	5.7	123,802	イ 50.8
5年平均					50.2

(参考2) 精米歩留りの推移

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

(参考3) 人口減少による需要の減少量

R6/7年からR7/8年の人口減少(▲63万人)による需要の減少量は ▲63万人×50.8kg/人=▲3.2万トン

とう精数量実績に基づく、R7/8年の1人当たり消費量の最大値の補正

- **令和7/8年の7月・8月のとう精実績**は、3カ年平均値の同月分と比べて約2,400玄米トン（0.42%）少なく
なっている。
- この減少率に、需要量全体に占めるとう精数量の割合を加味すれば、**需要見通し上では0.20%の減少率に相当。**
- **減少率0.20%とすると、1人当たり消費量（インバウンド需要除く）の最大値は50.7kg/人。**

○とう精数量実績の推移（千トン（玄米））

	7月	8月	7月～8月 計	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計
令和4/5年	272.5	279.9	552.5	280.1	278.4	269.9	290.0	252.8	260.6	290.1	291.1	290.8	289.6	3,345.9
令和5/6年	282.5	291.5	574.0	285.3	288.9	278.8	299.8	268.1	279.7	295.9	310.1	302.8	293.8	3,477.3
令和6/7年	301.7	308.3	609.9	278.9	278.7	268.9	287.2	261.7	258.5	271.0	303.1	288.6	291.5	3,397.9
3カ年平均	285.6	293.2	578.8	281.4	282.0	272.5	292.3	260.9	266.3	285.6	301.4	294.1	291.6	3,407.0
令和7/8年	304.5	271.9	576.4 (▲0.42%)	<i>280.3</i>	<i>280.8</i>	<i>271.4</i>	<i>291.1</i>	<i>259.8</i>	<i>265.2</i>	<i>284.5</i>	<i>300.2</i>	<i>292.9</i>	<i>290.4</i>	3,392.9

注 とう精数量は、報告のあった468の精米事業者のうち、前回調査（本年6月）と比較可能な398の精米事業者の実績を集計。

3,006千精米トン

○1人当たり消費量の最大値の補正

上記の減少率（▲0.42%）に、
R7/8需要量全体（626.1万トン※）に占める
R7/8とう精数量見込み（300.6万トン）の割合
を乗じて**▲0.20%**

※ 50.8kg/人×123,170千人=626.1万トン

$$0.42\% \times \frac{300.6 \text{ 万トン}}{626.1 \text{ 万トン}} = \mathbf{0.20\%}$$



$$50.8\text{kg} \times (1 - 0.20\%) = \mathbf{50.7\text{kg}}$$

需給の変動に柔軟に対応できるR7/8年以降の需給見通しの策定について

R7/8需給見通し

<10～11月>

- 需要見通し：人口減少や直近の1人当たり精米ベースの消費量の実績、インバウンド需要の動向、精米歩留りを考慮して幅で設定。（ふるさと納税は、調査内容を精査し次第、見通しに反映）
これを検証するものとして、とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた需要量の推計を行う。
- 生産見通し：R7年産予想収穫量（9月25日現在）（10月中旬）を踏まえて変更。

<3月>

- 需要見通し：上記の考え方を踏襲しつつ、ふるさと納税や家計調査等により需要量の変動やその要因の変化を極力把握し、逐次変更。
- 生産見通し：R7年産収穫量（確報）（2月下旬）を反映。
- いずれも、約半年分の精米歩留りの実績を反映。

R8/9需給見通し

<10～11月>

- 需要見通し：R7/8の需要見通しの算定の考え方を踏襲して設定。
 - 生産見通し：需要に応じた生産を図るため、R7年産予想収穫量（9月25日現在）を踏まえつつ、需要見通しに対して余裕を持って設定。
- ⇒ **8年産の生産に向け、種子注文が本格的に行われる11月に間に合う時期に需給見通しを作成。**

<3月>

- 需要見通し：上記の考え方を踏襲しつつ、ふるさと納税や家計調査等により需要量の変動やその要因の変化を極力把握し、逐次変更。
 - 生産見通し：需要に応じた生産を図るため、R7年産収穫量（確報）を踏まえつつ、需要見通しに対して余裕を持って設定。
 - 需要見通し、生産見通しは、いずれも約半年分の精米歩留りの実績（2月頃）を反映。
- ⇒ **8年産の6月30日の営農計画書提出期限に向け、生産者が主食用か非主食用とするかを判断できるよう、最新の動向を反映して変更。**

R9/10需給見通し以降

<7月>

- 需要見通し：とう精数量・精米歩留りの実績を踏まえた推計を充実させ、この推計をベースに算定する方向で検討。また、緊急調査を踏まえた生産・流通・消費の実態把握で得られた情報などを反映することを検討。
- 生産見通し：需要に応じた生産を図り、需要見通しに対して余裕を持って設定。

※ 需要見通し・生産見通しはいずれも玄米ベースに加え、精米ベースでも設定。

※ 生産や消費の最新の動向に応じて、柔軟に需給見通しの変更を実施。

※ 民間輸入米は、本年6・7月で約4.7万トンと昨年比で大きく増加。仮にこのまま推移すれば、国産主食用米の需要量を減少させる可能性があるため、引き続き状況を注視。

設定のポイント

- 令和8/9年主食用米等需要量 <694～711万玄米ト> ……①
 - ・ 令和7/8年の需要見通しの算定の考え方を踏襲して設定
 - ・ 1人当たり消費量(精米ベース)は、直近5年(令和2/3年～6/7年)の需要実績(精米ベース)を基に、平均値～最大値の幅で設定(50.2～50.8Kg/人)
 - ・ 人口とインバウンド需要について、令和8/9年の推計値を用いて算出
- 令和8年産主食用米等生産量 <711万玄米ト> ……②
 - ・ 生産量は、需要見通しに対して余裕をもって設定することとし、①で設定した需要量見通しの上位値に設定
- 令和9年6月末民間在庫量 <215～245万玄米ト> ……③
 - ・ 上記の見通し設定に伴い、令和9年6月末民間在庫量を設定

今回の基本指針の変更（案）〔令和8/9年の需給見通しの設定〕

○ 令和8/9年の主食用米等の需給見通し

		今 回	
		(万玄米ト)	(万精米ト)
令和8年6月末民間在庫量	H	215～229	191～205
令和8年産主食用米等生産量	I	711	630～637
令和8/9年主食用米等 供給量計	J=H+I	926～939	821～841
令和8/9年主食用米等需要量	K	694～711	622～630
令和9年6月末民間在庫量	L=J-K	215～245	191～220

②

需要見通しに対して余裕をもって設定
(①で設定した需要量見通しの上位値に設定)

①

令和7/8年の需要見通しの算定の考え方を
踏襲して設定

③

上記①～②の見通しに伴い設定

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入れは21万玄米トを予定。これは
上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。

※2 政府備蓄米の放出(全体で約59万玄米ト)に係る買戻し及び買入れは、今後の
需給状況等を見定めた上で行う。

令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出

【算出のポイント】

令和 7 / 8 年需要見通しの算定の考え方を踏襲して設定

- ① 1人当たり消費量：直近5年（令和2/3年～6/7年）の需要実績（精米ベース）を基に、平均値～最大値の幅で設定
- ② 人口、インバウンド需要：令和8/9年の推計値に更新

【令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量（精米ベース）

【算出方法】

需要実績

—

インバウンド需要量
(試算)

÷

人口

=

一人当たり消費量
(インバウンド需要除く)

①直近5年平均値

50. 2kg/人

②直近5年の最大値（令和6/7年）

50. 8kg/人

II 令和8/9年需要量（玄米ベース）

一人当たり消費量
(インバウンド需要除く)

50. 2kg/人

×

令和8年人口
(推計値)

122,569千人

=

令和8/9年需要量
(インバウンド需要除く)

615. 0万トン

+

令和8/9年
インバウンド需要量(試算)

6. 6万トン

=

令和8/9年需要量
【精米ベース】

621. 6万トン

÷0.896

令和8/9年需要量
【玄米ベース】

694. 1万トン

一人当たり消費量
(インバウンド需要除く)

50. 8kg/人

×

令和8年人口
(推計値)

122,569千人

=

令和8/9年需要量
(インバウンド需要除く)

623. 0万トン

+

令和8/9年
インバウンド需要量(試算)

6. 6万トン

=

令和8/9年需要量
【精米ベース】

629. 6万トン

÷0.886

令和8/9年需要量
【玄米ベース】

710. 7万トン

玄米
換算

(参考1)一人当たり消費量（精米）の推移

	需要実績 (万トン)		インバウンド 需要 (万精米トン) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg) (①-②)÷③
	玄米	精米 ①			
R2/3年	704.0	631.3	0.0	126,146	50.0
R3/4年	701.5	632.8	0.1	125,502	50.4
R4/5年	691.1	622.3	1.9	124,947	49.7
R5/6年	704.9	626.2	5.1	124,352	49.9
R6/7年	712.7	635.0	5.7	123,802	50.8
5年平均					50.2

(参考2) 精米歩留りの推移

(単位: %)

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7	90.3	90.0	88.6	89.2	89.6

(参考3) 人口減少による需要の減少量

R7/8年からR8/9年の人口減少(▲60万人)による需要の減少量は ▲60万人 × 50.8kg/人 = ▲3.1万トン

今回の基本指針の変更（案）のポイント

前回（9月19日）

I

令和7/8年の主食用米等の需給見通し

(万玄米ト)

(万精米ト)

在庫量の確定

①

②

令和7年9月25日現在の
予想収穫量に更新

申込確定に伴い更新

③

①に伴う6/7年需要実績の
変更、最新のとう精数量
や人口の値を踏まえ更新

④

⑤

今回

I

令和7/8年の主食用米等の需給見通し

(万玄米ト)

(万精米ト)

令和7年6月末民間在庫量

A

155

138

令和7年産主食用米等生産量

B=C+D

748

662~670

うち生産者ふりい目幅以上

C

715

うち生産者ふりい目幅未満のうち、
主食用への供給見込量

D

32

令和7/8年政府備蓄米供給量

E

23

21

令和7/8年主食用米等供給量
計

F=
A+B+E

926

822~829

令和7/8年主食用米等需要量

G

697~711

624~631

令和8年6月末民間在庫量

H=F-G

215~229

191~205

II

令和8/9年の主食用米等の需給見通し

(万玄米ト)

(万精米ト)

令和8年6月末民間在庫量

H

215~229

191~205

令和8年産主食用米等生産量

I

711

630~637

令和8/9年主食用米等供給量計

J=H+I

926~939

821~841

令和8/9年主食用米等需要量

K

694~711

622~630

令和9年6月末民間在庫量

L=
J-K

215~245

191~220

⑧

注1:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

注2:上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式や枠外の民間
輸入(令和6/7年:約4万実トン、令和7/8年(7~8月):約4万実トン)による輸入米は含まれ
ない(財務省「貿易統計」より)。

注3:需給の見通しについては、今後の生産量や需要量の把握に努め、必要に応じて柔軟に対応。

・需要に応じた生産量として、令和8/9年需要量の上位値
(711万玄米ト)に設定

・直近5年(令和2/3年~6/7年)の需要実績(精米ベース)を
基に算出した1人当たり精米消費量(平均値~最大値)
:50.2Kg/人~50.8Kg/人
・令和8年の人口(推計値):122,569千人
・令和7/8年のインバウンド需要(推計値):6.6万精米ト

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入は21万玄米トを予定。
これは上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。

※2 政府備蓄米の放出(全体で約59万玄米ト)に係る買戻し及び買入は、
今後の需給状況等を見定めた上で行う。

(参考) 米の需給に関する情報

今回の基本指針の変更（案） 〔令和6/7年の需給実績の確定〕

【令和6/7年の需給実績の確定】

- 令和7年6月末民間在庫量の確定 <157万玄米ト → 155万玄米ト > ①
 - ・ 出荷・販売段階 速報値(138万玄米ト) → 確定値(136万玄米ト)に更新
 - ・ 生産段階 速報値(20万玄米ト) → 確定値(20万玄米ト)に更新10月22日公表の「生産者の米穀在庫等調査結果」の「6月30日現在における在庫量(確定値)」により推計
- 令和6/7主食用米等需要量の確定 <711万玄米ト → 713万玄米ト > ②
令和7年6月末民間在庫量(2万玄米ト減少)の確定に伴い需要量が2万玄米ト増加

○ 令和6/7年の主食用米等の需給実績

		前回(9月19日) 速報値		今 回 確定値	
		(万玄米ト)	(万精米ト)	(万玄米ト)	(万精米ト)
令和6年6月末民間在庫量	A	153	135	153	135
令和6年産主食用米等生産量	B	679	606	679	606
政府備蓄米供給数量	C	36	32	36	32
令和6/7年主食用米等 供給量計	D=A+B+C	868	773	868	773
令和6/7年主食用米等需要量	E	711	633	713	635
令和7年6月末民間在庫量	F=D-E	157	140	155	138

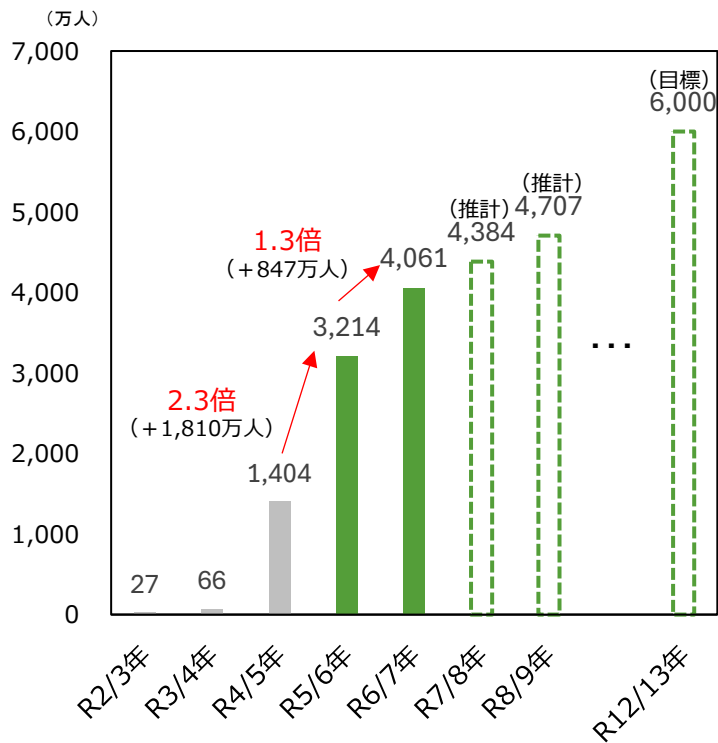
② 在庫量の確定に伴う変更

① 在庫量の確定

インバウンド需要の増加

- コロナ禍で減少した訪日外客数が、近年は大きく増加。

訪日外客数の推移



出典：日本政府観光局「訪日外客統計」

インバウンド需要の試算

	訪日外国人数	平均泊数 (注3)	訪日外国人 当たり米食回数 (注5)	訪日外国人による 米の需要量 (注6) (精米ベース) (玄米換算)	
R2/3年	27万人	8.8泊 (注4)	17.7回	0.0万吨	0.0万吨
R3/4年	66万人	8.8泊 (注4)	17.7回	0.1万吨	0.1万吨
R4/5年	1,404万人	8.8泊 (注4)	17.7回	1.9万吨	2.1万吨
R5/6年	3,214万人	10.1泊	20.3回	5.1万吨	5.6万吨
R6/7年	4,061万人 (注1)	9.0泊	18.0回	5.7万吨	6.3万吨
R7/8年 (推計)	4,384万人 (注2)	9.0泊	18.0回	6.1万吨	6.8万吨
R8/9年 (推計)	4,707万人 (注2)	9.0泊	18.0回	6.6万吨	7.3万吨
R12/13年 (推計)	6,000万人 (注2)	9.0泊	18.0回	8.4万吨	9.3万吨

	訪日 外国人 数	需要量 (精米 ベース)
	3,214 万人	5.1 万吨
+847 万人	4,061 万人	5.7 万吨
	4,908 万人	6.9 万吨
	5,754 万人	8.1 万吨
+3,388 万人 (4年分)	9,142 万人	12.8 万吨

出典：観光庁「インバウンド消費動向調査」（旧：訪日外国人消費動向調査）

注1：2025年5月と2025年6月は観光庁が公表している速報値。

注2：政府目標（2030年：6,000万人）に向かって直線的に増加すると仮定して推計

注3：平均泊数は、暦年の数値で公表されているため、R4/5年はR4年、R5/6年はR5年、R6/7年はR6年の数値など、米穀年度にあてはめて試算している。

注4：令和2～4年の訪日外国人消費動向調査は長期滞在者に結果が偏っていることから、直近で代替となる令和元年のデータを使用

注5：1泊当たり2回と仮定

注6：1回当たり78g（FAO供給熱量データに基づき推定）として推計。玄米換算は歩留りを一律90.6%で計算

年齢別消費量から推計した需要量

- 米の1人当たり消費量（2022、2023年）は、若年層が多く高齢層は少ない傾向。
- これをもとに、2025年の年齢別1人当たり消費量を推計し、年齢別の人口を乗じることで、2025年の需要量（精米ベース）は625.3万トンと試算。需要見通しの幅に当てはまる水準となっている。
- なお、試算の前提としている年齢別の米の摂取量は、各年1日分の食事内容の調査結果であることに留意。

年齢別の1人当たり消費量（精米ベース）
(kg)

	2020	2021	2022	2023	2024
19歳以下			52.1	52.2	
20～29歳			54.5	53.2	
30～39歳	「国民健康・ 栄養調査」 中止		53.1	54.4	未公表
40～49歳			52.1	53.8	
50～59歳			49.6	50.0	
60～69歳			46.0	48.1	
70歳以上			44.6	43.6	

2025年の需要量の試算（精米ベース）
1人当たり消費量は、2か年（2022、2023）のうちの大きい値を採用

	1人当たり 消費量 (Kg/人)	2025年の 人口 (万人)	需要量 (万トン)
19歳以下	52.2	1,897	99.0
20～29歳	54.5	1,275	69.5
30～39歳	54.4	1,316	71.5
40～49歳	53.8	1,596	85.8
50～59歳	50.0	1,841	92.1
60～69歳	48.1	1,492	71.8
70歳以上	44.6	2,902	129.4
合計	-	12,317	619.1

+ インバウンド = 6.1万トン
**625.3
万トン**

- 年齢別の1人当たり消費量は、年齢別の米の摂取量（厚労省「国民健康・栄養調査」）の比率で、米穀の需要見通しにおける各米穀年度のインバウンドを除いた需要実績（2022年：R4/5 620万精米トン、2023年：R5/6 621万精米トン）を按分して推計
- 「国民健康・栄養調査」は、毎年11月のある1日分の食事内容の調査結果であることに留意

資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」、総務省「人口推計」

（注1）「国民健康・栄養調査」は、2020年及び2021年は調査中止。2024年実績値は令和7年11月公表予定。

（注2）「国民健康・栄養調査」は、1日分の食事内容の調査。毎年11月のなるべく普通の摂取状態にある1日（日曜・祝祭日・冠婚葬祭その他特別に食物摂取に変化のある日を避けた一日）に調査を実施。食品の重量は調理を加味した数量であり、米は「めし」・「かゆ」などで算出。

（注3）2025年の人口は「人口推計（令和7年9月1日時点）」による。

(参考) 年齢別の1人当たり消費量(精米ベース)の算出詳細

2022年(精米ベース)

	2022年の 人口 (万人) ①	1日当たり		
		1人当たり 摂取量 (g/人・日) ②	年齢別 摂取量 (t/日) ③=②×①	構成比
19歳以下	2,002	310	6,202	17%
20～29歳	1,268	324	4,109	11%
30～39歳	1,366	316	4,310	12%
40～49歳	1,741	310	5,398	15%
50～59歳	1,751	295	5,164	14%
60～69歳	1,498	274	4,102	11%
70歳以上	2,870	265	7,609	21%
合計	12,495	-	36,895	100%

R4/5のインバウンド
を除いた需要実績
620万精米トン
を左記の比率で按分

④=620万精米トン
×年齢構成比

年間	
年齢別 消費量 (万トン) ④	1人当たり 消費量 (kg/人) ⑤=④/①
104	52.1
69	54.5
72	53.1
91	52.1
87	49.6
69	46.0
128	44.6
620	49.7

算出方法 ※2022年・2023年共通

- 厚生労働省「国民健康・栄養調査」から得られる年齢別の1人当たり摂取量(②)に総務省「人口推計」による年齢別人口(①)を乗じることで、1日当たりの年齢別の摂取量(③)及びその構成比を算出。
- 米穀の需給見通しのインバウンド需要を除いた需要実績(2022年：R4/5 620万精米トン、2023年：R5/6 621万精米トン)に上記の構成比を乗じて年齢別消費量(④)を推計し、それを年齢別人口(①)で割り戻すことで1人当たり消費量を算出

2023年(精米ベース)

	2022年の 人口 (万人) ①	1日当たり		
		1人当たり 摂取量 (g/人・日) ②	年齢別 摂取量 (t/日) ③=②×①	構成比
19歳以下	1,967	313	6,156	17%
20～29歳	1,272	319	4,059	11%
30～39歳	1,343	326	4,379	12%
40～49歳	1,688	323	5,445	15%
50～59歳	1,793	300	5,382	14%
60～69歳	1,484	289	4,283	11%
70歳以上	2,889	262	7,556	20%
合計	12,435	-	37,260	100%

R5/6のインバウンド
を除いた需要実績
621万精米トン
を左記の比率で按分

④=621万精米トン
×年齢構成比

年間	
年齢別 消費量 (万トン) ④	1人当たり 消費量 (kg/人) ⑤=④/①
103	52.2
68	53.2
73	54.4
91	53.8
90	50.0
71	48.1
126	43.6
621	49.9

資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」、
総務省「人口推計」

- (注1) 「国民健康・栄養調査」は、2020年及び2021年は調査中止。2024年実績値は令和7年11月公表予定。
- (注2) 「国民健康・栄養調査」は、1日分の食事内容の調査。毎年11月のなるべく普通の摂取状態にある1日(日曜・祝祭日・冠婚葬祭その他特別に食物摂取に変化のある日を避けた一日)に調査を実施。食品の重量は調理を加味した数量であり、米は「めし」・「かゆ」などで算出。

精米歩留りの推移

- 令和5年産の精米歩留りは、88.6%。令和2～4年産の平均と比較すると▲1.4%の減少。
- 令和6年産の精米歩留りは、89.2%。令和2～4年産の平均と比較すると▲0.8%と減少しているが、令和5年産と比較すると+0.6%の増加。
- 精米供給量には、この歩留りの減少により、令和5年産では10万玄米トン程度、令和6年産では6万玄米トン程度影響していると考えられる。

【精米歩留りの状況調査の調査結果】

	精米歩留り	大手卸売業者	地方卸売業者	米穀店
2年産	89.7%	89.8%	89.3%	89.7%
3年産	90.3%	90.5%	89.7%	90.0%
4年産	90.0%	90.2%	89.5%	89.6%
5年産	88.6%	88.8%	88.1%	88.6%
6年産	89.2%	89.4%	88.9%	88.8%

5年平均	89.6%
------	-------

【令和5・6年産と過去の精米歩留りとの比較(調査結果)】

(単位：%)

過去の精米歩留り				昨年の精米歩留り		今年の精米歩留り		
2年産	3年産	4年産	2～4年産平均	5年産	過去平均との比較	6年産	過去平均との比較	昨年との比較
			①	②	②－①	③	③－①	③－②
89.7	90.3	90.0	90.0	88.6	▲ 1.4	89.2	▲ 0.8	+0.6

精米事業者のとう精数量の実績について

- 精米事業者によるとう精数量の実績を踏まえると、令和4/5年から令和5/6年は増加（+13万トン）している一方、令和5/6年から令和6/7年にかけては減少（▲8万トン）。
- 直近の令和7年7～8月は、令和6/7年の同時期と比べ、▲3.4万玄米トン減少（令和5/6年の数量とほぼ同程度）

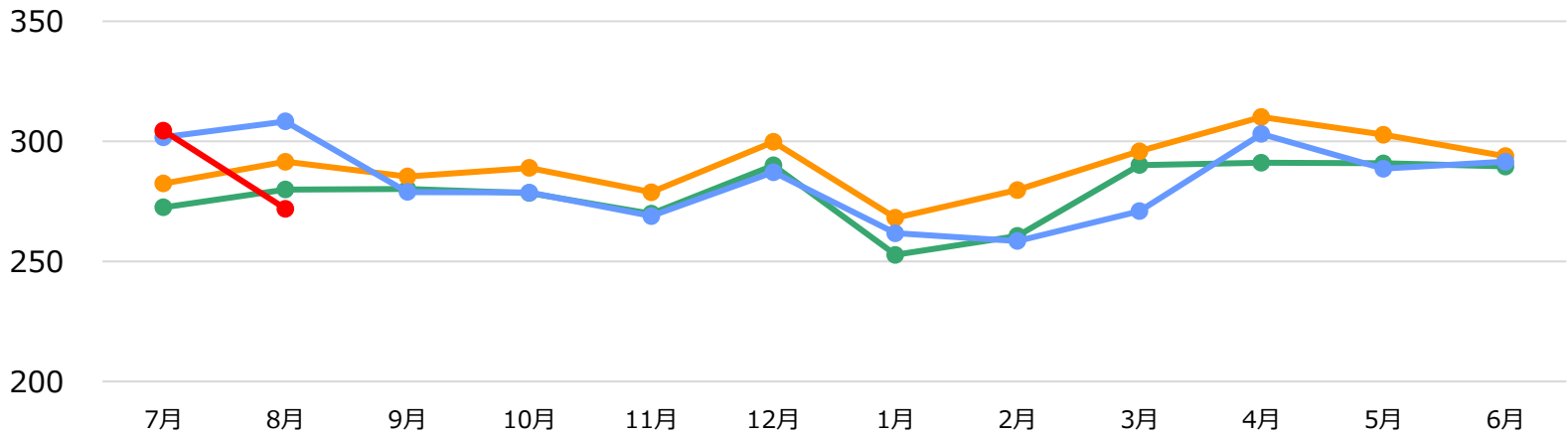
○とう精数量実績の推移（千トン（玄米））

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計	7月～8月計	対前年同期差	対前年同期比	対4/5年同期差	対4/5年同期比
令和4/5年	272.5	279.9	280.1	278.4	269.9	290.0	252.8	260.6	290.1	291.1	290.8	289.6	3,345.9	552.5	—	—	—	—
令和5/6年	282.5	291.5	285.3	288.9	278.8	299.8	268.1	279.7	295.9	310.1	302.8	293.8	3,477.3	574.0	+21.5	103.9%	+21.5	103.9%
令和6/7年 (備蓄米除く)	301.7 (301.7)	308.3 (308.3)	278.9 (278.9)	278.7 (278.7)	268.9 (268.9)	287.2 (287.2)	261.7 (261.7)	258.5 (258.5)	271.0 (271.0)	303.1 (271.8)	288.6 (235.7)	291.5 (202.4)	3,397.9 (3224.6)	609.9	+36.0	106.3%	+57.5	110.4%
令和7/8年 (備蓄米除く)	304.5 (205.7)	271.9 (211.1)											—	576.4	▲33.5	94.5%	+23.9	104.3%
													—	416.8	▲193.1	68.3%	▲135.6	75.4%

注 とう精数量は、報告のあった468の精米事業者のうち、前回調査（本年6月）と比較可能な398の精米事業者の実績を集計。

○とう精数量の推移

とう精数量（千トン（玄米））



注 とう精数量は、玄米投入量である。

令和5年産・6年産の生産量・需要量（推計値）等

- 家計調査では、全体の需要量の把握は難しいため、精米事業者の精米とう精数量（398社）から全体の需要量（精米ベース）を推計。
- **その結果、令和4年産と比較して、令和5年産・6年産は増加。**これに加え、高温障害等により精米歩留まりが悪かったことから、需要量（玄米ベース）は、令和4年産よりも令和5年産、6年産は増加。

とう精数量の推移				精米歩留りを踏まえた需要量推計			基本指針の 需要実績
	① 投入量 (玄米万トン)	② 精米歩留り	③=①×② とう精数量 (精米万トン)	④=①/⑦ 比率 (玄米)	⑤=①/0.485 推計需要量 (玄米万トン)	⑥=⑤×② 推計需要量 (精米万トン)	⑦ 需要実績 (玄米万トン)
令和4/5年 (価格高騰前)	335	<7-8月> 90.3 % (3年産)	301	0.485	691	622	691
		<9-6月> 90.0 % (4年産)					
令和5/6年	348	<7-8月> 90.0 % (4年産)	309	-	718	637	705
		<9-6月> 88.6 % (5年産)					
令和6/7年	340 (備蓄米除き :322)	<7-8月> 88.6 % (5年産)	303 (備蓄米除き: 287)	-	701	625	713
		<9-6月> 89.2 % (6年産)					
令和7/8年 (推計値)	339	<7-8月> 89.2 % (6年産)	—	-	699	—	697~713 (見通し)
		<9-6月> — % (7年産)					



※調査対象：年間取扱量500トン以上の卸売事業者630社。うち398社から回答

※価格高騰前のR4年産のとう精数量（需要に直結）と需要量の比率から、R5・6年産の需要量を推計

【参考】民間貿易による輸入状況（枠外輸入）

- 国家貿易以外のコメの輸入（枠外輸入）には、高水準の枠外関税（341円/kg）を設定。貿易統計によると、毎年、インド産やタイ産の長粒種など、600～800トン程度が輸入。
- 令和6～7年度は、国内の米価の高止まりを受けて、令和6年度S B S輸入の年間上限10万トン全量が落札され、S B S輸入で落札できなかった事業者等が、枠外関税を支払って主食用米を輸入する動きが拡大。

＜近年の輸入数量＞

（単位：実トン）

2／3年	3／4年	4／5年	5／6年	6／7年	7／8年 (9月末時点)
734	858	794	707	41,249	48,099

＜月別の輸入数量＞

（単位：実トン）

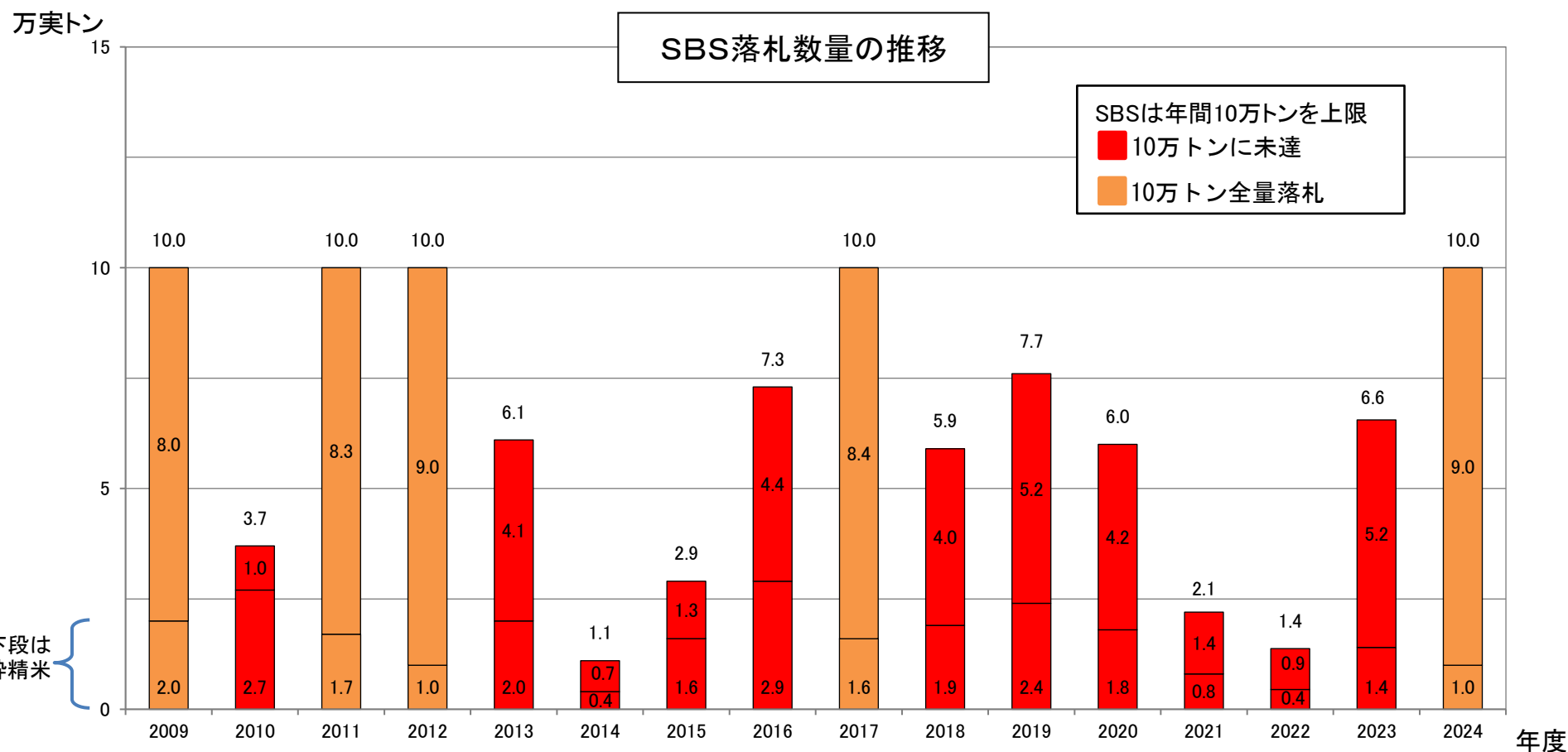
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7～6月 合計
6／7年	124	64	41	93	202	118	414	489	1,280	6,838	10,607	20,979	41,249
7／8年	26,397	15,168	6,534										48,099

資料：財務省「貿易統計」

注：枠外関税を支払って、民間貿易により輸入されたコメ（もみ、玄米、精米、碎米の合計）の数量

【参考】SBS米の輸入状況

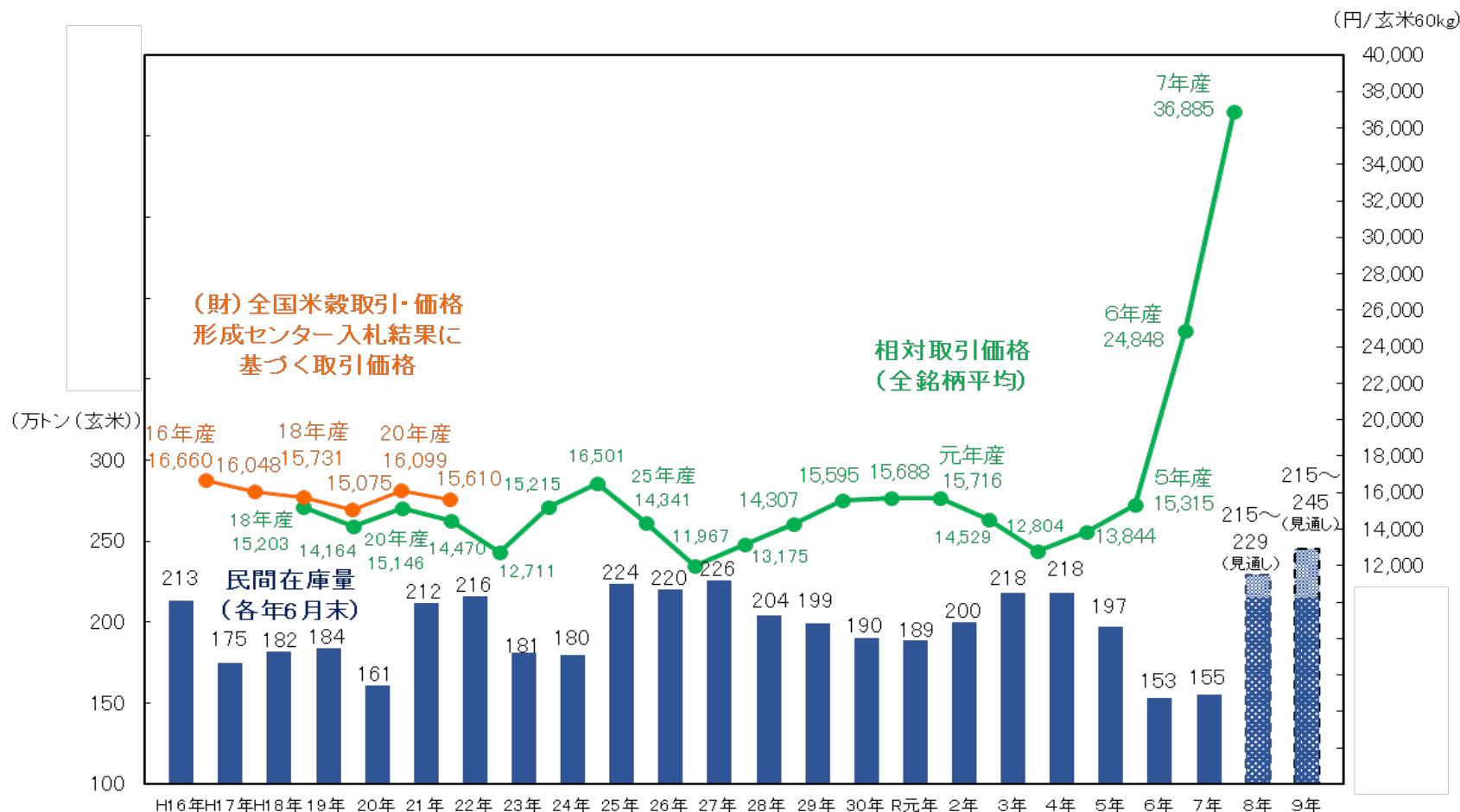
- SBS米は、年間10万トンを上限に輸入され、主に主食用に流通。毎年度、国産米を政府備蓄用に10万トン以上買い入れることにより、国産米の需給に影響を与えないよう措置。
- 国産米の需給が緩和すると、SBS米の需要が弱まり、国産米の需給が引き締まると、SBS米の需要が強まる傾向。



相対取引価格と民間在庫量の推移

- 令和8年6月末の民間在庫量は、令和7/8年需給見通しで示している「215～229万トン」と見込んでおり、仮に229万トンに達した場合、直近10年程度で最も在庫水準が高かった平成27年の226万トンに匹敵する水準。
- 令和9年6月末の民間在庫量は、令和8/9年需給見通しで示している「215～245万トン」と見込んでおり、仮に245万トンに達した場合、6月末の民間在庫量調査を開始した平成16年以降で最大の水準。

〔(参考) 令和7年6月末の民間在庫量：155万トン、相対取引価格（令和6年産）：24,848円/60kg
平成27年6月末の民間在庫量：226万トン、相対取引価格（平成26年産）：11,967円/60kg〕



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和6年産及び7年産は出回りから7年9月までの速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。